

オーディオ再生上のやっかいな問題—その 4
—カートリッジの L/R の位相—

アナログ再生の L/R 位相差問題に注目したきっかけは、オーディオ仲間に拙宅のシステムでは、左右の位相差があるのではないかという指摘をもらったことからです。ちょうどアームのオーバーホールをした後でしたので結線の全面的な見直しをしましたが、異常はなく、どうやら試聴位置の片方に空箱を積んでおり、これが共振していたようで、左右の音響特性の均一化を図り、その後の訪問者にも確認していただきました。

このような左右の位相差問題について ZANDEN に問い合わせたところ、部屋の特性や端子のばらつき、カートリッジの左右位相差などの問題があることを教えていただきました。ZANDEN では、左右のアジマス調整に関連するカートリッジの左右位相差の調整を ZYX のカートリッジを装着した KUZMA のアームで実施しているとのことでした。関連してドイツ製の調整ソフトである Dr. Feickert による Adjust+を紹介していただきました。

部屋の特性の問題は、上記のような経験をしたところでは。

今回は使用している ZYX のカートリッジが、ZANDEN でも採用しているということで ZYX のサイトを調べてみると、資料の ZYX 製品コンセプト&テクノロジーに行き当たりましたので、今回、これについて引用し、Dr. Feickert による Adjust+については、次回に紹介いたします。

ZYX のサイトの記事は分りにくいようですが、どうやらカートリッジのコイルの巻き方により、左右の出力に位相差が出るということのようです。

データは示されていませんが、Dr. Feickert の Adjust+には測定例が提示されており、左右の位相差が小さいことが示されていますので、次回に触れることにします。

なお、上記の経緯については、アナログ再生の LR 位相差問題にまとめています。

【資料リスト】

資料 4-A [アナログ再生の LR 位相差問題](#)

資料 4-B [ZYX 製品コンセプト&テクノロジー](#)